



## クローデル

真昼に分かつ マリヤへのお告  
げ クリストファ・コロンプス  
の書物 詩法 東方所観

## ヴァレリー

旧詩帖 若きパルク 魅惑 散  
文詩 ナルシス交声曲 セミラミ  
ス テスト氏 他

鈴木信太郎・佐藤正彰 他訳

## 世界文學大系

51

筑摩書房版

世界文学大系 51

---

クローデル  
ヴァレリー

---

昭和 35 年 11 月 10 日発行

定価 450 円

訳者代表 佐藤正彰

発行者 古田 晁

印刷者 山元正宜

発行所 株式会社 筑摩書房

東京都千代田区神田小川町2の8  
振替東京 165768 電話 (291) 局 7651

---



拾遺詩篇	伊吹武彦・村松剛	292
未成詩	菅野昭正・清水徹	297
海	佐藤正彰	302
素材詩	佐藤正彰	308
当世風俗	佐藤正彰	314
A B C	鈴木信太郎	320
水浴	佐藤正彰	323
ロール	佐藤正彰	324
譬喩	佐藤正彰	325
水を讃う	佐藤正彰	329
ナルシス交声曲	伊吹武彦	331
楽劇 アンフィオン	伊吹武彦	340
楽劇 セミラミス	吉田健一	347

魂と舞踊

一人対話

テスト氏

詩と抽象的思考

クローデルと無限

ヴァレリーの肖像

解説 クローデル

ヴァレリー

年譜

伊吹武彦訳

佐藤正彰訳

村松剛・菅野昭正訳  
清水徹

佐藤正彰訳

M・ブランション  
渡辺守章訳

H・モンドール  
菅野昭正訳

渡辺守章

佐藤正彰

443

456

451

439

426

416

401

370

367

354

裝  
幀  
庫  
田  
發

ク  
ロ  
ー  
デ  
ル





# 真昼に分かつ

## 人物

イゼ 「ド・シスの妻」

メザ 「後にイゼの恋人」

ド・シス 「イゼの夫」

アマリック 「後にイゼの情夫」

## 第一幕

豪華船の甲板。

インド洋上、アラビヤとセイロンのあいだ。

〔メザ、アマリック〕

アマリック どうとう話に乗ってきたな。

メザ きめたわけじゃない、まだ。

アマリック それなら、やらないことだ。おれ

を信用してくれたまえ、きみのことを思うか

らさ。やらないことだな。

メザ 悪くない話だと思うがね。

アマリック だがそれをやる男は？

メザ 才能はあるさ。

アマリック 弱い奴は大嫌いだ、油断できない

からな。

きみひとりでやることにしたら、あの男も仲

間に入れて！

それだけできみの相手は栓を抜いた炭酸水だ

ぜ！どこにも置きようのない気むずかしや

のソーダ瓶だ。

いいかい、用心することだね、メザ君よ。

ところで、やつこさんの女房をどう思う？

あ、おでました。

〔イゼ、ド・シス、一等の階段を昇ってデッキに

あらわれる。〕

鐘が八つなる。〕

イゼ お昼ね。

ド・シス 海図に位置がでるでしような。

〔汽笛が鳴る〕

メザ なんとという叫び声だ、この火の無人境

に！

ド・シス しいっ！ ごらんさない！

〔指で天幕をあける〕

イゼ 開けないで、後生ですから！

アマリック 目をやられた！ 鉄砲だよ、まる

で。太陽なんてものじゃない、こいつは！

ド・シス 雷の火ですな！ まるで反射炉のな

かに追いまれて、燃えつくしたようだ！

アマリック すべてがおそろしいほど純粹だ。

光と鏡のあいだにあって

自分というものが、おそろしいほどよく見え

る、薄板二枚のガラスのあいだにとらえられ

たし、らみのようだ。

メザ なんて美しく、なんてきびしいのだ！

海は背骨をぎらぎら光らせ

殺された牛のごとく、まっ赤に灼けた鉄で、

じゅうじゅう焼く。

それであれ、みんながその恋人だっていう、

美術館で見かけるご存じの彫刻、

パールの神、

いまはもう恋人なんてものじゃない、海を犠

牲にする死刑執行人！ もう接吻なんてもの

じゃない、わきつばらをえぐる短刀だ！

そして面と向かいあって、海は太陽の一打ち

ごとに体で答え、

形もなく、色もなく、純粹で、絶対な、巨大

で、ぎらぎら輝くもの、

光線の剣に差しぬかれて 光線のほかは何も

返さない。

イゼ まったく、なんて暑いこと！ ミニコイ

の燈台まで、あと幾日？

メザ ほくはあの水に夜じゅう映る、小さな燈

火を思いだす。

ド・シス きみ、知っていますか、あと幾日か、

アマリック。

アマリック とんでもない！ だいいち、わた

したちが出帆してから、正確には何日経ちま

したかね、それさえわかりませんな。

メザ 毎日毎日があるで同じようで、ひとかた

まりの、白と黒でできた大きな一日のような

気がする。

アマリック わたしはこのじつと動かぬ涯しな

い太陽が大好きだ。ぐっと気分が落ちついて

この影のない大いなる時を、わたしは讚美す

るね。

わたしは存在し、わたしは見る、汗もかかず、シガーをくゆらす、わたしは満足だ。

イゼ 満足ですって！ じゃあなたは、メザさま、あなたも、

ご満足ですか？ あたくし、あたくしは満足などしてはおりませんことよ！——子供たちを見にいかなくては。

ここにいらして！

なかにおはいりにならないで。お二人とも、ここにじっとしていらして、

あとでお話したり、なにか面白いことでもいたしましょう。

シス、あたくしの長椅子運んできてくださいな、それに扇子もね、それからクッションと、ついでに爪切りと、ついでにご本と、それと、いっしょに塩の小瓶もね、それで全部！

〔二人去る〕

アマリック というわけ。すばらしい女だろう？

メザ ご存じのように、こと女にかんするかぎり、ぼくはまったくの門外漢だぜ。

アマリック まさにさよう。それに、ご婦人がたのほうでも、きみについてはまったくの門外漢。

おれはきみが好きだし、おれにはきみのことはよくわかってる。——あの女はね、おれに惚れている、事実なんだ。それはそうと、きみはあの女の気に入ったら

しい、きみに気がねして、どう思われているか、知りたがっている。

メザ ぼくはこう思うね、あれは恥しらずの浮気女だと。

アマリック それでも結構。きみにはまるでわからないんだ。きみ、あれはみごとな女だぜ。

メザ その話は、マルセイユを出て以来、耳にたごができるほどきかされたぜ。

アマリック だって、ほんとにそれとおりのだからさ。ただ、きみにはそれがわからないのだ！

おいおい、いくらおとぼけなすって、どうやらきみの頭にもそれが植えつけられたらしいな！

こないだの晩、あの女の前でやってのけたあのお芝居！ さしだされたあのタバコを、

ふだん、すわなきみが最後まですいつくす、まるで宗教的だったぜ！ なにもそう照れることはないやね。

メザ きみは大馬鹿だ。

アマリック ねえ、おれは、ブロンドの女しか好きになれない。

浮気女じゃない、用心したまえ！ 女戦士だ、征服者だぜ！

彼女が支配し、絶対権をふるうか、あるいは彼女の方で、まるで

足をばたつかせる大きなけだもの同然、無器用に身をまかせるか、二つに一つ！

純血種の牝馬さ、ひまがあつて馬乗りになったら、さぞおもしろかるうよ。

だが、あの女には、騎手がいない、あんなに

小馬がぞろぞろついているんだから。裸馬さながらに走りまわる。

気が狂つたように、なにかもぶちこわして、自分自身までぶちこわしていくのが目に見えるよ。

あの女、外国人なのだ。おれたちのあいだでは、

お国とお仲間から離れているわけなのさ。首領の女だ。しばらくつけておくには重たい義務がいくつも要る、馬なら大きな黄金の被い

が要るだらう。それにしても彼女の亭主、美男子のお坊ちゃん、

やさしい目をしたやせっぽちの南仏男、役に立たない技師の見本、

きみにもよくわかるだらう、こりや罪悪だよ、あの女のために。子供を産ませるしか能がないのだから。

そろつてシナへ行くのをこうして見ていると、おれはまったくぞつとする！

やっこさんたち、きみといっしょになる、用心したほうがいいよ、坊や！

——あの女だ。

〔イゼ戻る。〕

ド・シス、彼女に言いつけられた品物をひきずつたり、かかえたりして運びながら、登場、それらを床に置く〕

イゼ〔笑いながら、三人の男をかわるがわる見くらべて〕あたくしは、あたくしは満足などしていませんわ！

「メザを指し」それからここにもう一人の満足してはいないかた。

「ド・シスを指し」もうお一人、満足していらつしやらぬおかた！

この人には、あたくしの長椅子を取りに行くのが億劫なんですの。いい工合に、あたくし、要りませんから。

なんでこの人は不満なのでしょう？ いつでも笑顔を見せるようなふうはしていますけど。でもあたくしは、満ち足りています！

〔大声で笑う〕

メザ あなたは満ち足りて、アマリックは満ち足りている。

ド・シス なぜって、かれは成功しているから。アマリック わたしが？ わたしは去年すっぴんかんになりましたぜ、

ビールのジョッキ同然、からっぽにされてしまつてさ！ ところで一発、新規まきなおしというわけ。

メザ なぜって、かれは必要な男だから。アマリック なぜって、かれには仕事がある。

多くのことがわたしに必要だし、多くのことにわたしが必要とされているのだ。

イゼ アマリック、あなたは成功なさる。あなたの手は器用、なさることは、なんでも上手になさるもの。

メザ かれは恵まれた手を持っています。(つまり物事するのは、牝牛と同じでいやというときには、乳をしぼらせないものですしね)

ド・シス 自分をうごかす力の上に、どっかと構えている。どこにいたって自分の立場に自信満々だ。

イゼ このあたくしときたら、どこにも自分の居場所がない。トランクに紐でくくりつけた長椅子、ハンドバッグのなかの鍵束、あたくしの世帯道具とかまどの守りといえればそれつきり！

メザ 「太陽を指しながら」あれがわたしたちのかまどですよ、わたしたちさまよう群の！

みごとに燃えていると思いませんか？ 満ち足りたやうなやうと、それがどうしたというのです。

無数の光芒を放つて地球にかかりつきりである、この太陽を見てごらんさい、

まるで編棒の先の編目に夢中になつてる老婆同然ですよ。

イゼ 殺人的よ！ とてもこの激しい力には耐えられないわ！

アマリック 太陽が力に満ちあふれ、わたしの生命が力に満ちあふれている。

すばらしいじゃないか、面とむかつて死を見つめるっていうのは。それに抵抗するだけの力がわたしにはある。

メザ 天空に真昼の時。わたしたちの人生の中央にある真昼時。

そしてここにわたしたちの出番、ほとんど同じ齡のいま、こうしてそろって、目をささぎるものとなない水平線に四方囲まれ、自由で、解放されている、

陸地からは切りはなされ、後先を見つづけないがら。

イゼ うしろには、水が、あたくしたちの行手にもまたさらに水がある。

ド・シス じつに悲しいことすな、若さが終りになってしまふというのには！

メザ おそろしいことです、生きていることが終りになるのは！

アマリック すばらしいことだよ、死んでしまわないうで、こうして生きていくというのには！

イゼ 朝のほうりが、ずっと美しかった。

メザ 夕方はまた、ひとしおでしょう。

きのうごらんになりましたか？

そこに拡がっている巨大な海の底から、どう生まれてきたかを、緑色の木の葉模様、それからバラ色とタバコ色の数々の湖が、それから混沌のうごめく明るみのなかに紅い火の矢が。

それは、色というものを油に似た色、この世のありとある色彩を含む色……そしてまた若者と 少女とは

もつとも若い緑の色を染しむもの、だがしかし聖者は

最後の日になつて勝利を得るのです、心の底深く

長いこともされていた香氣は、そのとき始めて殻を破つて立ち昇るのですから。

アマリック 時刻としては、いちばんすばらしいのは、いまこの時だ。わたしの望む

ただ

一つのこと、明晰に見ること、物事があるがままに

しっかりと見ること、

このほうがずっと美しい、わたしの望む姿で見ようというのではなく。わたしのすること、わたしがしなければならぬことをね。

ド・シス もう時間を無駄にはできません。

メザ 間にあわないのは、時間のほうではなく、わたしたちが時間に間にあわないのです。

アマリック まかしておいてくれ。わたしのチャンスが手に入ったら、

そいつをのがすようなことはしないから。

イゼ それにしてもおかしなことよ!

小鳥や灰色の魚だって

生垣とか、柳の切株の下の穴とかに、お家をつくる場所はあるのに。

それがあたくしたちときたら、四人ともおたがいさまに、居場所をきめることもできない。こうして途方もない大海原を、船のデッキであっちへゆらゆらこっちへゆらゆら!

あなたがたは自由のご身分! でもあたくしは、

エプロンのかげに子供たちがいるあわれな女、手足を二本ずつ持った子供たちが!

それにあたくしは、一時たりとも放してくれない殿方三人にかこまれて、男の子同然に暮らさねばならない! 家といつても

この長椅子、登録してある八個の荷物、

船室持込みで長持三さお、バゲッジ・ルームに長持三さおに木箱が二つ、ポストン・パツ

グが一つに、帽子を入れた大箱一個。ああ、あたくしのかわいそうな帽子!

メザ 自由であること、いまはそれが不安になる齡なのです。

アマリック ちつとも悪い兆ではない! ひと

つおたがいの顔つきをしらべてみよう、ポーカーでカードを出したあとのように。

わたしたちは、みんないっしょに、勝負に加わったのです、四本の針のように。そして運命のほうで、

わたしたち四人揃って編み出すように、取っておく織物は何だか、誰にわかるでしょう? ド・シス、もう時間を無駄にはできない。つべこべいつてる時ではありませんな。

——メザ君、もう一言、ちょっと。

〔かれらは右舷にまわる〕

〔イゼは長椅子に横たわり、本をとりあげる。アマリック、やや離れたところに腰をおろし、葉巻をすい、彼女を見つめる。ややあって、葉巻を投げ捨てる。と、イゼは目をあげ、本を置く〕

イゼ それで、ご存じなかったわけ、あたくしたちが乗りあわせていたということ?

アマリック あなただとわかったときには、とうに出帆していた。

みんなは鱧のほうに行っていた。反対側にはわたしたち二人しかいなかった。風を切つて立つ背の高いあの女だった。

イゼ そう、ではすぐおわかりになった? それでは十年前から、あたくしはそんなに変わっていないかったかしら?

アマリック 同じだ、同じあなただ、いやそれ以上だ。一目でわかった。

わたしの識っていたあの同じ女。同じ背丈。

虚空を切りぬくように突如、立ちほだかる同じ黒い影。自由奔放な、すつくと立つ、大胆で、しなやかで、毅然とした。

イゼ いつもきれいな?

〔彼女はかれを見、笑い、顔をあからめる。間〕  
アマリック あなただということが、はつきりわかった。

イゼ おぼえている。あたしは大きなマントを着、フェルトの帽子をかぶっていた。

アマリック あの女だ。あなただった。

イゼ あたしは嬉しかったの! ねえ、

結局のところ、誰しもきつと嬉しいのだから、

出発することが、自分のあとにお店を全部はうり出してくることが、ね? 帽子も、ハンケチも、あたしたちのためにふるのはご無用!

アマリック そうさ。

イゼ どこかで、はりさける思いに泣いている、

かわいそうな女もいないでしょうね? なにか感じのよい後家さんとか、柳の笹のようにかたく立ちすくむ、笛のようにすらりとした娘さんとか。

〔笑う〕

いいのよ。かまわないわ。

——あたしは嬉しかった! すべてが、なんて塩からかったこと! 意地悪なあのお天気の見本、荒み切った、

あたしは好きよ。それに海が、思いっきりあたしたちに飛びかかってきた、不心得者！

これこそ海つものなのね！

ところがこいつは、今度は、

よく磨いた板の間、退屈しきって滑っていく。

だってあんまり鍍金がきいていて、

うっとうしい、おっしやるとおり、なんてみ

ごとな航跡を

つくっていくこと！ あなたはこうおっしや

つたのね、どんより眠ったような水面が大好きだ

アマリック 好きですよ、そいつに穴をあけて

いく、それが自分でわかるのが好きなんだ。

わたしが大嫌いなのは、あんなふうにいじく

りまわされ、胴上げされ、揺すられ、プラン

でこすられ、殴りつけられ、ひっくりかえさ

れること、

ちやうどあの高いところ、クレタの島の近く

を吹きすさぶ、どうだい、ありゃ！ あの気

違じじみた風のように、なんだか、なぜだか、

わけがわからない。

いまはすべておしまい、それでよかった！

一回勝負で決着がついてる。

万物の配置は

原初の姿にもどされてしまった、世界創造の

目のように。

水と天、その二つのあいだにわたしが、まる

で英雄イズデューパールだ。

イゼ アマリリックったら！ あなたはいつも

それほど、この

なんだか、なぜだか、わけのわからない気遣い風を、嫌ってはいなかったわ。

〔沈黙〕

アマリック イゼ、どうしてあのと看、その気

にならなかつたのだ？

イゼ あなたはお金がなかつたもの。

アマリック で、それで？

イゼ あなたはひどく強そうで、ひどく自信を

もつてるようにみえたの。

自分に確信がありすぎた、あなたは。齒を強

く噛みしめるあの様子が！

あたしは自分を必要とする人が欲しかった

の！ おわかりでしょう、あなたなしでも十

分やっけていけることが。

アマリック で、それから？

イゼ で、それから

あなたのそばにいと、あたしはひどく弱い

ものみたいな気がした。いやだったの、それ

が。

アマリック じゃそのせいで、あなたはあの男

と結婚したの？

イゼ あの人を愛してるし、愛してもいたわ。

アマリック 畜生め、あんたがた二人のうち、

強いほうは、やっこさんじゃないというわけ

か！

イゼ あの人があたしを見つめる独特な目つき、

こちらが恥かしくなってしまう。

あの人長いまつげ（まるで女の目なのよ）

その大きな目でみつめられると、

大きな黒い目だわ（あの人目のなかには何

も見えないの）

あたしの心はくらくらとなる、あつ、と思っ

て気のついたときは、あの人いいなりにな

っている。努力はしたわ、でも逆らうことは

できなかった、全然。

アマリック だからこそあなたはあの男に腹を

立ててるんだな。しかしあの男はやっぱりあ

んたを愛してる。

イゼ 愛してなんかいないわ！

かれ一流の愛しかた。あの方は自分しか愛さ

ない。あたしたちの初めての夜のこと、いま

でも覚えている。

それからのちは、この子供たち、次から次へ

と！ 死んだのは、そのうち一人きり。

逃げて、怯えて、命がけの冒険よ！ あたし

の青春はこうも無残に過ぎはてたのよ！

アマリック だがしかしイゼ、イゼ、ねえイゼ、

ぼくたちが出会ったあの輝かしい朝のこと

は！ イゼよ、ほらあの輝かしかつた寒い日

曜日だ、十時に海の上でさ！

なんという猛り狂った風だったろう、燦々と

輝く太陽のなかを！ びゅうびゅうと横殴り

に吹きつる、そしてきつい北東風が砕け散

る波濤を馬糞でならし、

海全体が、われとわが身をのりこえようと盛

りあがるんだ、打ちたたたく、砕きあう、陽の

光のなかを躍りあがって、疾風のさなかへと

び散って行く！

きうは月明りのもと、夜のいちばん深いと

きに、

ようやくシンシヤ海峡にかかり、目をあけていた者は、起きあがると、円窓の湯気をけしてすっかり雪に包まれ切った、広い灰色のヨーロッパを、ふたたびそこに見出したものだ、声もなく、顔かたちもさだかでなく、眠りのうちにひとびとを迎えいれているのだった。それからエビフアニーのあの晴れあがった日に、わたしたちは右側からうしろのほうへと残してきた、

コルシカ島を、まっ白で、晴れ晴れとした、鐘の音の鳴りひびく朝の花嫁のような！

あなたは、イゼ、エジプトから帰ってきた、そしてこのわたしは、地の涯、海の底から出てきたのだ、

わが人生のはじめの一口、思いきってぐいっつとひっかけ、ポケットには、この固い拳といまは数を数えることを知ったこの指と、それ以外は無一物さ。

そのときだ、すると一陣の突風がおそいかかっつて平手打ち、

あなたの櫛を、そっくり、吹き飛ばした、するとあなたの髪の毛の束が、わたしの顔にぶつかってきた！

こうして背丈高き乙女はいま

笑いながら振りむく。そのひとはわたしを見つめる、そのひとをわたしもみつめた。

イゼ 思いだすわ！ あなたはあのころ、ひげをのばしていた、馬櫛のようにかたいひげだった！

あのころはあたし、ほんとうに強くて陽気だ

った！ ほんとうによく笑ったものだ！ ほんとうにしっかりしていた！ その上ほんとうに、きれいだった！

それから人生というものがやってきた、子供たちができた、

そしていまでは、ごらんのとおりに、すっかり飼ひ馴らされて、従順になった、

まるで手綱ひく手に従うだけの白い老いぼれ馬、

おいちに、おいちにと四本の足をかわり番にうごかして。

〔大声で笑う〕

アマリック ほらほら！ まだ笑うことができるとじゃないか！

イゼ あたしは牢屋につかまっていたの。でもいまは自由、海の空気が鼻からじんと頭に来る！

——あたしの言うこと、すぐお信じになってはだめ、言葉とおりにおとりになるなんて、ひどいかな。

あのころはとつてもお馬鹿さんだったの！

おかしいわ！ いまでもまだ、小娘のような気になってしまふ！

だって、あたしには育ててくれる両親がおりませんでした、アマリック。あたしは外国人だから、言葉も正しくいえません。

あたしはひとりっきりで、自己流に育っちゃった。意地悪な見かたはなさらないでね。

ほかの人とだったら、なにかもきつと違つたようになってたでしょうにね。

アマリック きらきらするこの美しい目！ こんどはきみ、両の目に涙をいっばいためる！ なんと！ お馬鹿さんなの、きみは。

〔二人、笑う〕

イゼ というわけで、あたしはまた出発した、こんなふうに行く先もまるで知らずに。

アマリック なんです？ あなたののご亭主はシナに仕事があるんでしょ？

イゼ とんでもないこと、僥倖だけが頼みの綱よ。

アマリック だってさ！ そいつはね、いつだってぞくぞく儲かるゴムの樹なんだぜ！ 食いや意地のはった蔓を出す！ やつこさん、自分の樹を見つけるだろうよ。

ぼくはやつこさんが、ぼくのつれのメザとちよいちよい話しているのをみかけたが。

〔間〕

メザは

ぼくに、シヤムのほうへ敷設するという鉄道の話をしてくれた。ビルマの国境へ延ばす電信線のこと。ご存じでしょう？

イゼ ちつとも存じませぬわ。マスキー！ あたしたちはいつだって、なんとかやってきましたもの！

アマリック メザか。わたしはあいつと話すのが好きですよ。かれは何も見ない。もし注意をむけることがあれば、

それはあなたにはない、ただあなたの言うことにです。まるで、人間ぬきでひとりです。

理屈ができるともいうように。そして気が向くか、それとも

向かないか、それによって顔つきが晴れ晴れとしたりかげたり。かれの考えていることはすべて他人にわかつてしまふ、かわいそうなほど！

あいつは強情です、自分たちのなかに〔芝居がかつて朗誦する〕

「守らねばならぬ高貴なる種子」とやらをもつた連中と同じだ。

まだ童貞だと思ふな。

イゼ 馬鹿にするのはおよしになって。

アマリック わたしが？ 馬鹿になんかしてませんよ。おやおや、おこりましたね。あいつ

は好きですよ。腹を立てないでください。イゼ あたし、あの青年が好きですし、あたし

のことを好きになって、あたしを立ててほしい、と思つてるんです。

どうしてあなたは、いつもこうあたしのそばにいて、あたしを片時も離してはくたさらないの？

人がなんて考えるでしょう？ あの人、あたし

たちちを見てるのがわかりますわ。そうよ、あの人、このあいの晩、あなたが

あたしに接吻したとき

たしかにあなたたちを見たと思ふわ。

アマリック それではどうぞ自由にな。

イゼ あの人、ひとりであるのを見て、あたし

はそばへ行きました。このあいの晩よ、

あのレオナルドって男をよんだら、

カフエ・コンセルのよらかな歌をうたったでしょう、あるとき、あの人にはあたしたちのところに残っていかなかった。

おぼえていらつしやる？ あたしは、クレイブ・デシンのローブを着ました、

黒のよ。あなたはよく似合つておつしやつた。

それであたしはあの人を横に、ひじをもたせ

かけるように坐つた、そうしたらあの人、低い声だけれど、思い切りあたしを非難した

そうなのよ、いまだかつて

あたしがそんな扱ひをうけたことがないよ

なやりかたで、あたしのことを！

だからあたしは、あやまつたわ、そしてさめざめと泣いてしまったのよ、小娘みたいに！

アマリック かわいそうなイゼ！

イゼ そうよ、あなたの言うとおりに、かわい

うなイゼよ！ イゼは、イゼは、かわい

な、かわいそうなイゼなのよ！

アマリック かわいそうなやつだ、メザは！

イゼ シナでは立派な地位についてるそうね？

アマリック 若くて税関長になつたくらいです

からね。

方言はすべて知つてゐる。

シナの総督の参事ですよ。

やつこさんこそ、ああいう土地でなんでも

きる。

陰気なやつだ。疲れているらしい。別のこ

が頭にあるんだ。やつこさん、

戻るのはいくらが最後だ、というんです宗教

的な熱情にとりつかれて。

あなたのご亭主が話している件は、

なんだか知らないけれどさ、

あの男の気をひいたようだ。わたしは、

用心するよう言つてるのだが。適当な人を

自分の電信線のためにさがしているのですよ。

たいへんな儲け仕事だ。

たいへんな儲け仕事ですよ。それに氣候がじ

つに、いい、いい、いいなんて言うのはそれ

はほんとうじゃないかもしれないが。しかし

ご亭主は

こういう暑い国に慣れていらつしやる。

イゼ あの人、いつも電気のほうの仕事をして

きましたわ。

アマリック そいつは好都合！ それならメザ

とかれと、二人をいっしょにおいてきぼりだ、

わたしは知らぬことにする、イゼをとらえ

て、イゼをにぎつてはなさず、わたしの行く

ところへつれて行こう。

イゼ 本気で？

あなた、あたしがつかまるつて、そのままつ

れて行かれるとお思ひなの？

アマリック もしわたしがそうしたいと思つた

ら、どうなのです！

そうしたいと思つたら、女戦士よ、わたしは

あなたの肩をつかまえますよ。

イゼをとらえて、イゼをはなさず、イゼをさ

らつて行く。

ここにあるこの手で、あなたが見ているこの

手で、それは大きなごつい手なんですよ。



イゼ そういうことなら、あなたにはお気の毒。あたしは行く先々に、仕合せをもたらしはしないから。

アマリック イゼ、それはほんとうなんです、よなぞ待っているんです？

わたしは恵まれた手をもっている。

あなたにはよくわかっているはず、わたしといっしょでなければ、あなたは

自分に欠くことのできない力を見つけないことでもできないし、わたしが男であることを知るすべもないでしょう。

イゼ このままにしておいて。

「かれは彼女をみつめる。考えながら。彼女は本に目を落とす。かれは葉巻をとりだし、遠ざかる」

「メザ戻ってくる。ぎこちない様子でイゼのほうに進みよる、が、彼女が目をあげないので、一瞬ためらってしまう」

メザ 何を讀んでいらつしやるのですか、そのこわれて毛ばだった本は、まるで恋愛小説のよう？

イゼ 恋愛小説よ。

メザ 二五〇ページ。外側をむしってしまったのは賢明でしたね。

おしまいで行くのはたいへんなんですから、どうせ結局は同じこと。

死ぬか、さもなきや、産婆さん。

イゼ いつだって長すぎるわ。恋愛の物語って、はっと思うほど緊迫感がなければならぬはず。たとえていえば、花や、香りのように、わかるでしょう、一切合財を得てしまった、一切

を手にしている、一切をすいこんでしまふ一息に、それはあなたに「あっ！」と言わせただけ、

一直線に、すばやくとどく香り、それであなた

うっすら笑う、ほんのちょっとだけ、「ああ！」

って、心はずでにとらえられている！

メザ この香りは花のものではありません。

イゼ 恋ですの？ 本のお話ですわ。でも、恋なんて、

それが、どんなものだか、あたくし、存じませんのよ。

メザ いや、ぼくだって、よくわかりません。ただぼくには理解できるんです……

イゼ あなた、理解なんかしてはいけませんわ！

意識を失わなくては。あたくしは性悪だから、自分ではとてもできません。

それは手術をうけることなのです。鼻のなかにつつこむ麻酔薬の綿の玉。

アダムの眠りよ、そうでしょう！ 公教要理に書いてあるわ。最初の女って、この方法でつくったのですもの。

女とは、ねえ、すこしはお考えになって！ あたくしのなかにある数々の生命のすべて！

恋する人の腕にだかれて、

死ななくては、

そのままじっとしていなければならぬ、女って、罪のないもの、自分のなかに何があるか、自分から出てくる

ものは何なのか、考えてみるなんて、とんでもない。女と男の母親のくせに！

メザ 女に何を求めたらよいのでしょうか？

イゼ たくさんのことがあると思います。そのなかでもとくに、生まれてくる子供のこと。

メザ もちろん子供のこと！ このあいだぼくが言おうとしたことを、あなたはよくおわかりにならなかった。

ぼくが思うに、それはひどく激しい発作なのだ、

自分をつくっているものが根こそぎゆさぶられて……

「かれは話そうとするが、口ごもり、どもり、口を閉じ、ぎらぎら輝く目で彼女をみつめる。唇がふるえている。

彼女は大声で笑いだす」

イゼ お話しになって、先生、うけたまわっておりますわ！ おおこりになってはだめ。

メザ かれのなかの一切が、もう一人のなかの一切を求めるのです。

ぼくが言いたかったのはこのことです。馬鹿みたいにお笑いになるには及ばない。

子供のことではない！ 生まれるのは、かれ自身なのです。どのようにしてかは知らないが、永遠のなから、ぼくたちが自分たちの

ために見つけたすこの瞬間を利用して。

しかし恋なんてものは、要するに男と女のあいだで演じる茶番なのだ  
問題はそもそも提出されてもいない。